

# 紫雄 第五十八号

## 若林先生から一言

今回は、弔の更改によって、紫雄をお届けいたします。

なにせ、この3年間、2020年春から2022年春まで活動がほとんどできず、春合宿は来年2023年3月までですから、実に4年目でやっと再開ということになりますね。夏合宿は何とか今年、2023年8月に山中湖の合宿所（セミナーハウスは禁酒令と管理人さんが中野さんから変わってしまったため等で使用できません）で行いました。3年ぶりということで、また料金も高いので、行ける人は富士急ハイランドで待ち合わせ、その後宿舎で打ち合わせを少ししただけで一泊で終わりました。ただ、私の富士急ハイランドのパスが「シニアパス」になり、ほとんどの乗り物に乗れないので、「トーマスランド」の下見に行っておりました。今度孫と一緒に行動こうと思っております。

ただ、これから少しずつ活動を再開します。今年のゼミ試が終わり、33期が「1」入室予定となります。どこまで若ゼミらしくできるか、や

はり合宿を柱に、みんなと一緒に楽しんで勉強していききたいと思います。

## 二十九期ゼミ長挨拶

齋藤 葵

肌寒い日が増え、ゼミに入った三年前の試験のことを思い出します。思い返すとこの三年間はあつという間で、日々の充実を感じます。

近況をご報告いたしますと、就職活動を終え、今年度前期から卒業論文に向け発表を行っております。就職活動におきましては、先生、先輩方にご教授いただきました。同期とも協力し取り組んでいましたが、不安なことも多くありました。そんな中先輩方が親身にお話を聞いて下さり、ご教授頂き、非常に心強かったです。全員が卒業論文に向けての準備に入ることができ、先生、先輩方の日頃からのご指導には心から感謝しております。

これからは社会人に向けより一層気を引き締めたいと思っております。

そして、後輩である30期が入ってから二年が経ちますが、後輩から学ぶことも多く、先輩という立場でありながら、成長させてもらっている気がします。11月には今年度のゼミナール入室試験があり、32期が入ってくるわけですが、先輩方が

私たちにしていたいただいたように、私たちも後輩にしつかりとゼミの暖かい雰囲気や素晴らしい環境を伝えていけたらと思います。

私たちのゼミでの時間も半分を切ってしまいました。礼儀を重んじることや、信頼関係の大切さを学んできましたが、ここでもう一度気を引き締めて残りのゼミ生活を精進していきたいと思えます。まだまだ至らないところの多い私たちですが、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



小島 ひなた

舗道に落ち葉が散る頃、朝晩に肌寒さを感じる季節になりました。時の流れは早いもので、二年前のゼミナール入室試験が昨日のこのように感じます。若林ゼミナールに入室できた喜びは今でも忘れられないものです。新型コロナウイルスでの影響で一年のブランクがあった代行販売ですが先輩方の支援の下、無事に終えることができました。私たち30期は、まだまだ至らない点が多く、先生や先輩方の力をお借りする事がありますが、自分たちで考え、協力し成長できるように日々精進してまいります。今年の夏には30期が主体となる夏合宿を開催しました。新たに21期・22期を迎え入れた今後のゼミ活動では、自分の言動に一層責任を持ち、ゼミ活動をしていく所存です。入室してから約二年間が経ち、緊張もほぐれてきた30期ですが、今後より成長していくために、先生や先輩方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

## 二〇二二年

### 若林ゼミ活動報告

#### 二〇二二年夏合宿

石丸 恵都

若ゼミでは年に二度春と夏に合宿があり、今年度は8月下旬に行い、約30名で参加した。合宿では、ディスカッションなどのワークショップや観光などのレクリエーションを行った。また、勉強や研究、報告などの活動を行い、若林先生やゼミ生同士、先輩後輩との親睦を深めた。他にも、先輩から後輩へゼミ運営のアドバイスや、就活相談などサポートなどをして頂いた。年に二回の合宿を通してゼミ全体で円滑なコミュニケーションができる環境を作っている。



今年は山中湖で行いました！

#### 紫雄 OBOG 会

山田 実季

3年振りとなる若林ゼミナール OBOG 会を行いました。コロナ禍後、初の開催となり、23期の先輩方を初めとする多くの OBOG の方々に来て頂き、貴重なお話を聞くことが出来ました。まず業界ごとに別れて頂き、そこから業界ごとに30期の就職活動の相談に乗って頂きました。企業説明会などでは聞けないような詳細な部分まで教えて頂き、大変参考になりました。多くの質問に答えて頂きありがとうございます。私たち30期は先輩方から教えて頂いたことを吸収し、今後の就職活動に活かしていきたいです。



8代に渡る若ゼミの先輩と交流しました

# 奨学論文

## 食品宅配業に携わる個人事業主についての考察

### ―労働問題に焦点を当てて―

加藤歩美、内田喬大

高田波、鈴木涼太、

世界的に大流行した新型コロナウイルス感染症は、あらゆる業界において影響を及ぼした。外食ができない、そしてステイホームが呼びかけられたこのコロナ禍において、フードデリバリー業界は急激に需要が高まり、成長した業界である、と言えることができる。本稿では、フードデリバリーの雇用形態である個人事業主に注目した。これは法人でもなく会社に雇われているわけでもないのに、働き方が自由で、能力次第で収入増が見込めるなどといった特徴がある一方、保険料は自己負担であり、何らかの理由で減収や働けなくなったときの保証制度が不十分であるという一面もある。

本研究では、「個人事業主に対して、政府は労働基準法や健康保険等を適用して保護し、労働者と同等に扱うべきである」という仮説を立て、検証した。媒体はGoogleフォームを用いたアンケート調査を実施し、10代から40代の計

66名から意見を収集した。結果、60%近くの人が個人事業主はこれまで以上に保護されるべきである、と回答した。このご時世だからこそ成長したフードデリバリー業界において、個人事業主という雇用形態を、もう一度考究する必要があることを私たちは提唱する。

### 本自分ご褒美班

森大成 榎山研太 浅利駿揮 中島優  
月 齋藤葵

自分ご褒美というのは昔から行われてきたことであるが、特に最近は新型コロナウイルスの影響で一人での時間が増加したため、自分ご褒美をする人が増えてきている。インターネットでのアンケートによると、主に人間関係・仕事の進行状況などから生まれるストレスを解消するために我々は自分ご褒美をしていると示された。コロナ禍と相乗して、現代では昔よりも人間関係の複雑化が起き、ストレス社会が進行している。自分ご褒美市場の拡大が進行しているが、我々の班は、「一人で喜びを分かち合うよりも、他人と喜びを分かち合う方がいいのではないのか。また、どんな人にとっても自分ご褒美市場がこれ以上拡大していくことは好ましいことではないのではな

いか」という仮説を立てて検証を行った。調査はアンケート機能を使い、喜びを分かち合う行為(複数問)を一人〇複数人という選択肢で調査を行った。結果はどの行為も複数がいいという回答になったため、人は他人と喜びを分かち合う方が幸せを感じ、自分ご褒美市場の拡大は好ましくないという結論に至った。



# 第三十一期

## 活動報告

### 代行販売班

林 毅

私たち若林ゼミ31期は代行販売を行いました。代行販売では以前はあった明治大学と明大前商店街との結びつきを強くすることを目的としています。そのために、商店街の商品をキャンパス内で販売し、明大生にその商品を認知してもらうことで地域交流の促進を図ります。また、学生食堂「和泉の杜」の混雑緩和を目指し、各学生にしっかりと昼食を取ってもらうことも目的としています。

近年はコロナウイルスの感染予防のために実施できなかつたのですが、今年は無事に実施することができました。活動では、若林ゼミの学生が主体となり、特別テーマ実践科目の学生と共に代行販売を手掛けます。学生が主体となり、協力していただく店舗の決定や交渉、大学の事務室からの許可を得ること、シフト作成など活動のために必要なことを行いました。そして、学部事務室や体育館事務室、メディア事務室、研究棟事務室などの教職員の方へも販売を行いました。事前に予約票を配り、当日の昼休みまでに商品を届けるこ

とで感謝の声を頂くことが出来ました。

春学期の実績として、10日間販売し、793,200円の売上を出すことが出来ました。粗利としては88,100円、利益としては63,000円となりました。

秋学期、来年以降も活動を行う予定ですので、今回の代行販売で上がった問題点を次に活かしていく所存です。



今年は「シュークリーム」「エクレア」「ガパオライス」「カレー」「海鮮丼」を販売しました

